

効果的な車両除染を

本紙東北支社 講習会開催

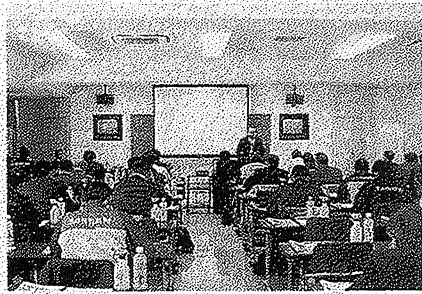
【福島】福島県自動車販売店協会(佐藤良也会長)の協力を得て日刊自動車新聞社東北支社は17日、福島市内の福自販会館で「放射能汚染車両の除染講習会」を開催した。

写真。放射能の除染について昨年12月、環境省がガイドラインを発表した。だがその内容は土壌と建物に限定したものの、自動車の除染についてまだ具体的な指針は示されていない現状が開催の背景にある。具体的かつ効果的な車両除染の実践は自動車流通販売業界にとって急務だ。

講習会には放射能除染について幅広い知識を有する4人の識者を講師に招いた。車両の除染から汚水の処理まで一連の流れが総合的に理解しやすい内容を目指した。県内アイ

ラーのサービス担当者や同県自動車整備振興会、同中古自動車販売協会、同自動車リサイクル協同組合の関係者ら約90人が参加、熱心に聞き入る姿が目立った。

講師に招いたのは放射能除染に効果が大きいとみられている除染剤を製造する米エールスコ社のアジア及び国内総代理店を務めるオーブ・テック



社の筒井和夫社長。同社製品を使用し、いわき市を中心に除染事業を展開、福島第一原子力発電所内の作業車両の除染も手がけるウイル社の猪狩秀直社長。同じく同社製品を使用、主に南相馬市で小学校

など公共施設建物の除染も手がける東日本美装の荒成敏社長。水質土壌や水質浄化のための調査や装置を手がけるアステック東京(森本辰雄社長、東京都江戸川区)の武島俊達執行役員らの4人。

講習会でオーブ・テックの筒井社長は自社製品「スパーショット」の特性を紹介した。その中「放射能は汚れと共に付着するもの。結果的によく汚れを落とす洗浄剤が放射能の除染に効果を発揮する。(同製品は)機械油など

一般的に落ちていくとされる汚れであっても油を(表面から)浮かし、効果的に取り除くことができる」などと解説した。

ウイルの猪狩秀直社長は画像とともに実際の除染作業のようすを説明したり、除染前後の放射線量の数値変化を示したデータを公開、解説した。東日本美装の荒成敏社長は建物の除染の具体的な仕方に加え、放射線の種類や特性について幅広い視点から説明した。アステック東京の武島俊達執行役員は放射性物質のセシウムを吸着する天然ゼオライトを用いた除染排水技術について説明した。

なお、講習会には同販売店協会の佐藤良也会長も参加した。開会の挨拶で県内の除染活動の進捗について触れ「国の除染計画の」実態に沿ったかたちで進んでいな

い。放射性物質をふき取ったものを捨てる場所もないのが現状。講習会を今後活用してもらいたいなどと述べた。